

古写経切の魅力

安 裕 明
「全国書筵の集い」講師

古写経切の収集を始めて十五年経ちました。まだ駆け出しですが、ますます深みにはまりつつあります。

古写経切の魅力は千三百年前の美しい肉筆がポケットマネーでも買えることです。その結果、美術館・博物館のガラス越しでなく、手にとって直に見ることが出来ます。

時としてとんでもないモノと出会うことがあります。皆さんは奈良時代というと誰を思い出しますか。東大寺を建立した聖武天皇でしょうか。悲田院・施薬院を開いた光明皇后でしょうか。「天平の甕」の鑑真和尚を思い起こす方もおられるでしょう。その鑑真和尚が何度も難破した苦難の末に日本に持ち来ったお経（四分律六十巻）がほんの数行とはいえ

私の手許に来ました。沢山の古写経切の中に埋もれていたものですが、何となく心惹かれて購入し、色々調べて判ったことです。そして、お経の何巻かは今も正倉院にあり、正倉院展に展示されました。

この経切を手にとって眺める時、書写した写経生や日本に将来した鑑真和尚の息遣いを感じるがあります。正倉院宝物クラスの古写経切がふっと出てくる日本という国はすごい国です。私はそんな国に生まれ古写経切に出会えた幸せを感じています。皆さんも古写経切にふれ、その魅力を味わってみてください。

午前十時より講演会場隣室で古写経切を展示します。

レポート

第六十八回 書道燈和会展

4月20日～22日

太田区民ホール アプリコ

今回の展覧会は今迄の形式に拘らず出品者の個性を活かす作品に絞った。結果として漢字かな交じり作品、新聞より課題を引用した作品、又、形式も縦額一辺倒から横額作品が多く出品され会場のムードもがらりと変わった。その他に色紙、短冊等の個性ある作品、テレビ放映中の平清盛に因んだ作品等は来訪者の目を集めた。尚期間中には神野溪雲先生を始めとして書筵会、同文会、叟幽会の諸先生方の来訪を仰ぎ紙面をもって厚く御礼申し上げます。

又、打ち上げ懇親会では諸先生方による激励の言葉、飯泉代表による会員への厳しい注文等を受け最後はカラオケそして会員によるバイオリンの演奏で宴を一層盛り上げ散会した。
(太田湊雪)

ヤング書道展帰国展

4月20日～22日

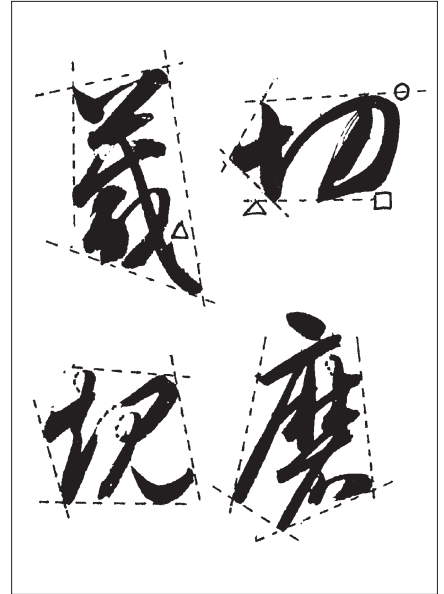
イオンモール浜松志都呂 イオンホール

私は二〇〇七年十二月から二〇一一年七月までミャンマー国ヤングン市に滞在して、日本語と書道を指導しました。今年二月にその成果発表と、日本文化紹介の展覧会を開催しました。それを地元浜松で展示した帰国展です。

私の作品は、一人暮らしのヤングンで毎日書き溜めた「方丈記」の全文をミャンマー語・仮名・現代日本語の三段で一五本の軸に仕立てました。その他書筵会主幹高橋香樹先生の作品を初め、多くの方の作品もお借りして大好評を得ました。席書とミニコンサートも会場で行ったので、書道に興味のなかった方にも喜んでいただけたいと思います。
(福田玉翔)

◆半紙二行たて書きに臨書して下さい。出品料400円

智永 真草千字文



1、字句切磨箴規

2、形式半紙タテ使用。右に「切磨」、左に「箴規」と臨書し、左余白に落款

3、概観 前回に続き運筆について。草書という点、曲線が主体とされますが、この智永千字文には、直線を主とした文字も数多くみられます。

今回の課題は、「箴」を除き直線を主とした文字で、特に「磨」は一画目から終画まで直線にて書かれており、凛とした緊張感のある文字となっています。

また、収筆におけるトメは、抜かず押えずといったふうで、穏やかな表情となります。押してきた筆を収筆で引き上げ、そのまま上に釣り上げます。このトメの方法は今回の課題にもよく見てとれます。

4、各字のポイント

切 一画目逆筆で強く入筆し、徐々に引き上げ、二画目は鋒先で入筆し押しながら送筆。△で裏面を使い、○で表面に戻し、圧を加え□で押えた後一気に鋒先にまで引き上げ次画へ。末画の収筆は筆を引き抜くように。

磨 二画目から三画目は筆を離さずに二画目を戻りながら送筆。「林」部は短い直線の連続。「石」の「口」は強く打ちバランスをとる。

箴 草冠の二点は幅広く、左への斜画はなめらかな運筆。「箴」字はこの斜画によって決まります。以後は曲線による。収筆は払わずに引き上げる。ハネは戻りながら△部でハネる。

規 逆筆により入筆。偏から旁への部分線は離れているが意連綿。△部では筆の面を変える。終画の収筆は払うよりも引き上げる感覚で。

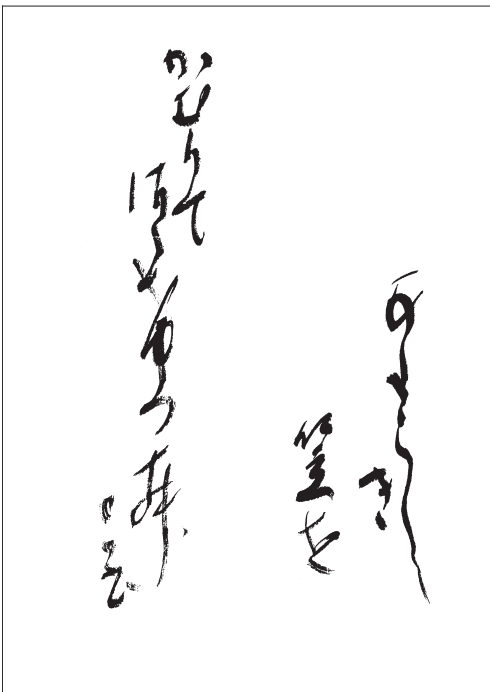
半紙課題(予告) (八月二十二日締切)



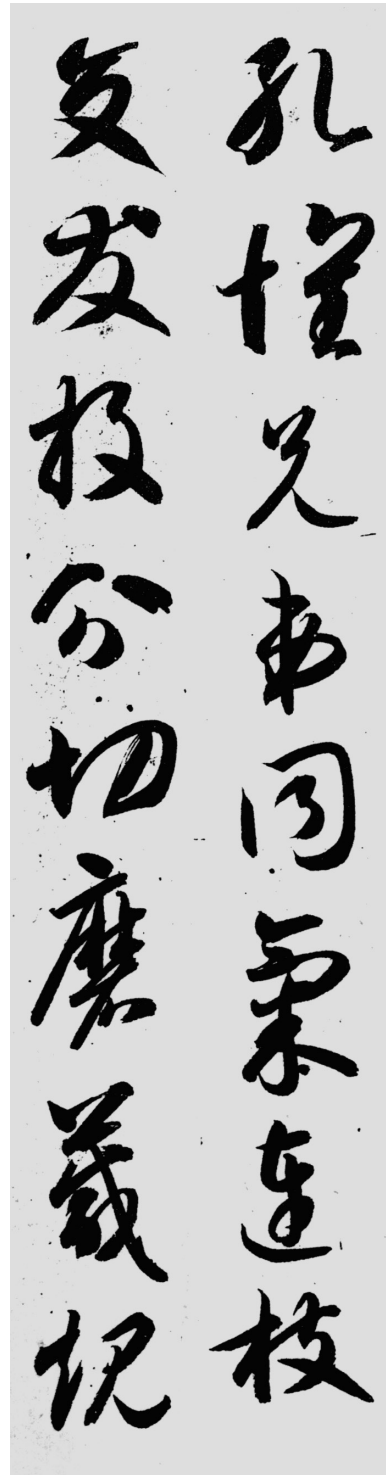
平岡華雪先生書 酒を飲み其の神を全うす(陸游)

訳：酒(百薬の長)を飲みその神(精神)を十分にたのませる

平岡華雪先生書 新しき笠をかむりてさげ摘む(素十)



智永 真草千字文



孔^{ハナハ}ダ懐^{オモ}ウハ兄弟^{ケイテイ}ナリ。気^キヲ同^{オナ}ジウシ枝^{エダ}ヲ連^{ツラ}ヌ。友^{トモ}ニ交^{マシ}ワレバ分^{ブン}ニ投^{トウ}ジ、切^{セツ}磨^{マシ}歳^{シキ}規^キセヨ。

(参考)

条幅臨書部は半紙臨書部と連動しています。半紙に取り組んだ方は是非条幅にもチャレンジしてください。また条幅だけ出品も大歓迎です。

▽字詰め自由。

▽落款は「○○臨」と調和を工夫し書き入れる。

▽出品料無料。



◆注意 ・条幅臨書部の出品はバーコード券右空欄に条臨と記入する。

A

鈴木静村書

山林受用琴書鶴 天地交遊風月吾 (葉園)
山林の受用は琴書鶴、天地の交遊は風月吾。



B

高橋香樹主幹書

山 一画目は二画目横画と離れた方が明るい。林 二つのタテ画に太細を。受 末画を大きくして用へ。琴 中心より左を密に、右を疎に。書 墨墨
継ぎ。この書き方も多い。字典を参照のこと。天 左右払いの筆意に注目。交 点は打たなくても可。遊 しんによるは伸びやかに。風月吾 墨継
ぎの三字群。いかにも硬く、ぎこちない。各人それぞれ伸びを注入させてほしい。



条幅に隷書作品が出品されることが少ないのが現状ですが、これは、八分の処理の問題があるかと思えます。八分は隷書の大きな特徴ですが、難しい技法でもあります。そこで今回は、あえて八分を有しない隷書を試みました。「山琴地」は篆書の形を隷書化したものです。
訳：山林の遊興に欠かせぬものは、琴と書と鶴、天地における最も交友は風と月と私。

予告 (八月二十二日締切)

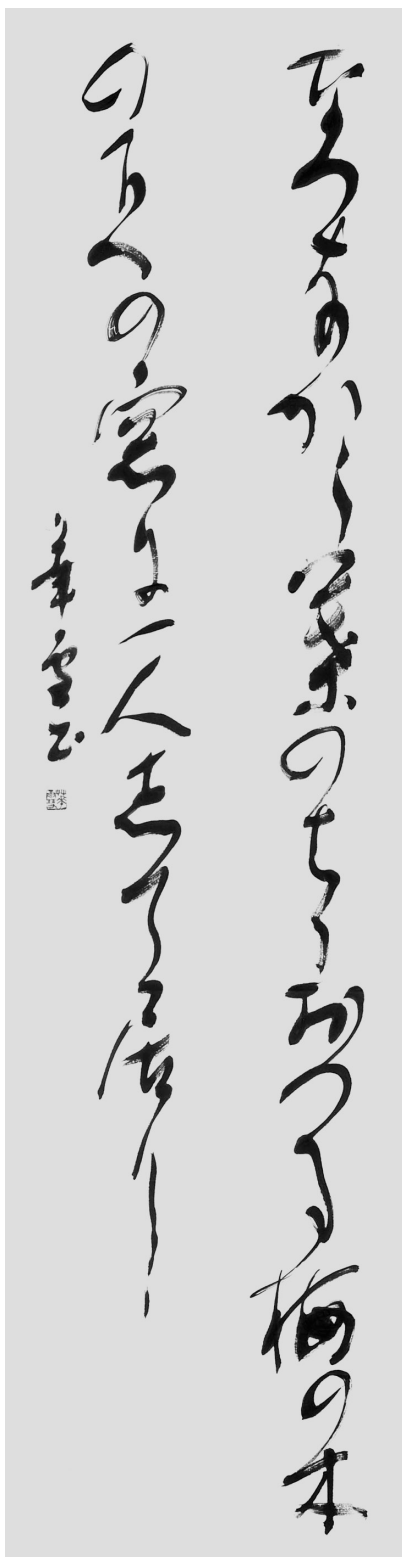
大水淼茫炎海接 奇峰碑兀火雲昇 (杜甫)

- ◆注意
- ・条幅部の出品は一人一点 (バーコード券の条漢を○で囲み(1)と記入する。)
 - ・二枚目からの出品 (バーコード券の条漢を○で囲み()に何枚目か数字を記入する。出品料500円)

A

平岡華雪先生書

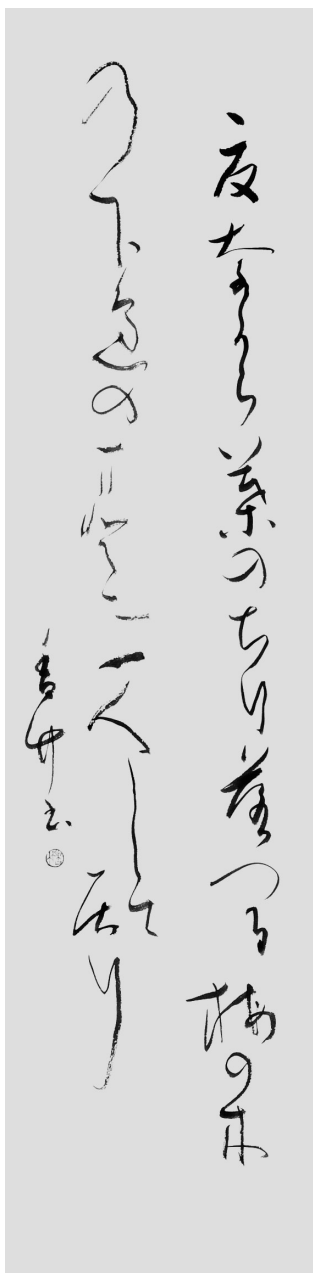
夏ながら葉の散り落つる梅の木の下への窓に一人して居り（島木赤彦）
なつ奈なから葉のちりおつる梅の木の下への窓に一人志して居り



B

青柳香竹先生書

夏な奈可から葉のちり落つる梅の木の乃下邊の万登ま二人して居り



学び方

構成は書き出しを低くして二行書き、「居り」だけ添えてバランスを考えました。墨継ぎは第三句、第五句が基本ですが、今回は五句で継ぎました。
書き方として「落」を左行の「し」の空間に対して太く。「梅の木」も左行の空間を配慮して、左へ張り出し強調。「乃下邊の」からは渴筆で、中心移動をし自然の変化を表出。最終句の「り」は暢びやか、そして一人さびしく居る意を…。
仮名作品は、文字の大小、太細、潤濁、そして伸縮が基本であります。その上で放ち書き、連綿をどのように入れるか、考えて作り上げます。

予告 (八月二十二日締切)

夏衣かたへすゞしくなりぬなり夜やふけぬらん行きあひの空 (新古今和歌集)

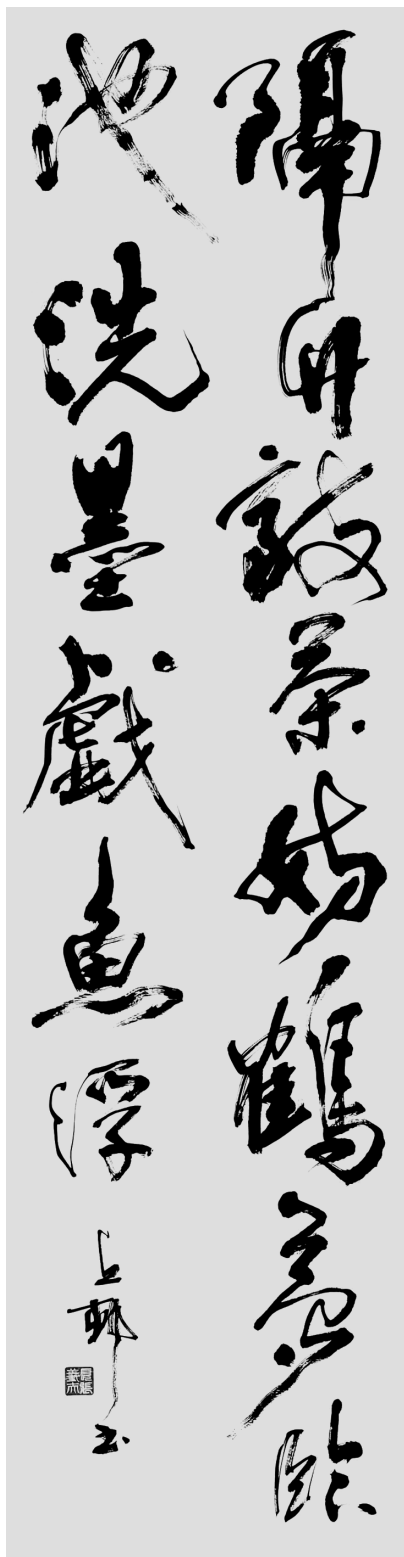
島木赤彦 | 明治九年〜大正十五年、長野県生。
大正歌壇の中心を占める。アララギ派の歌人。茂吉とともに万葉主義を唱え、子規以来の写生を発展。「アララギ」の編集に携わる。作風として、鍛練道を説き、寂寥、幽寂な世界を庶幾する。歌集「馬鈴薯の花」「切火」「氷魚」「大虚集」など。

- ◆注意
- ・条幅部の出品は一人一点（バーコード券の条かを○で囲み（1）と記入する。）
 - ・二枚目からの出品（バーコード券の条かを○で囲み（ ）に何枚目か数字を記入する。出品料500円）

条幅部 随意参考

戸張丘邨先生書

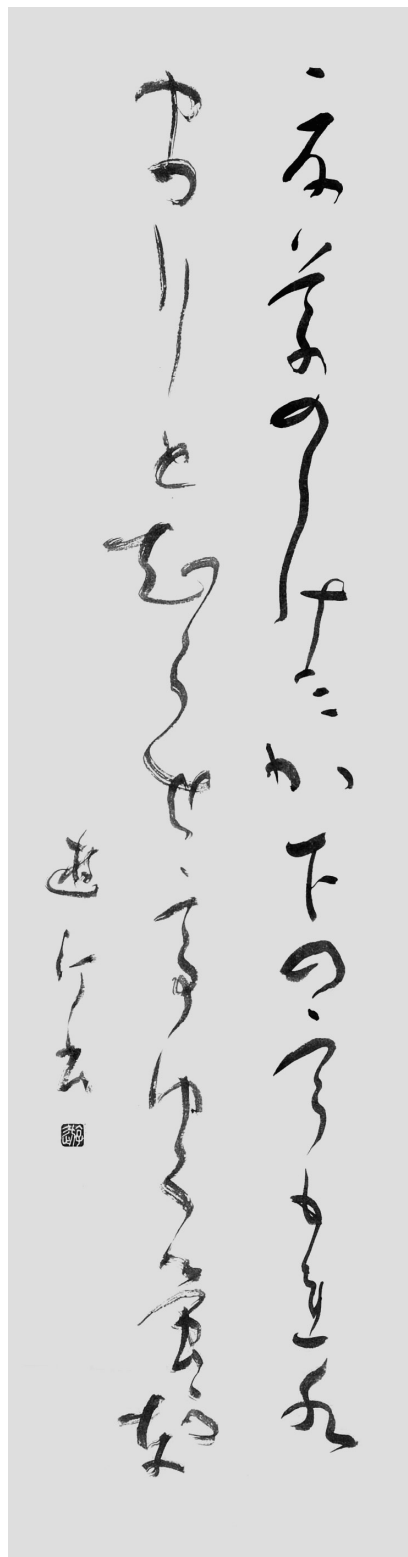
隔竹敲茶妨鶴夢 臨池洗墨戲魚浮（浦瑾）
竹を隔て茶を敲き鶴夢を妨げ、池に臨み墨を洗えば魚浮び戯れる。



訳：竹林のこちらで茶をひきたたいて鶴の眠る邪魔をするが、池に至って硯の墨を洗えば魚は浮きでて戯れる。

立川遊汀先生書

夏草のしげみが下の埋れ水ありと知らせてゆくほたるかな（新葉和歌集 後村上天皇）
夏草のしげみか下の字も連水安りと知らせ亭ゆく蛩可な

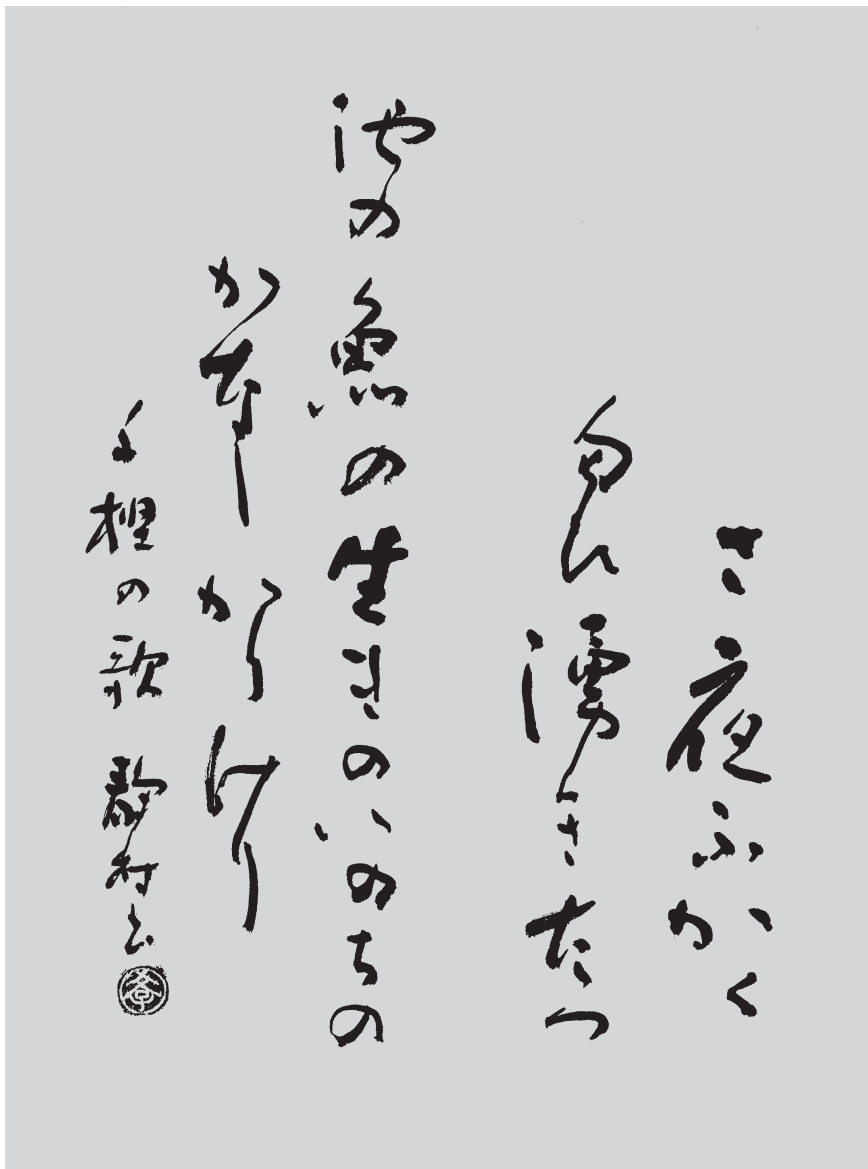


- ◆注意
- ・条幅部の出品は一人一点（バーコード券の条随を○で囲み（1）と記入する。）
 - ・二枚目からの出品（バーコード券の条随を○で囲み（ ）に何枚目か数字を記入する。出品料500円）

鈴木静村書

△「の」字のこと▽

三行目に「の」が五つも集中。こういう場合、あまり「の」の変化のことは考えない方がよい。大小、太細は多少考えたとしても、その程度でいいと私は思っている。漢字かな交じり書は普通の手紙を書くような調子なので、ことさらに「同じ字」の変化は考えない方がよいと思う。変化を考えれば考えるほど、かえって不自然になるように思うからである。



△潤濁をハッキリ▽

三行目「池の魚の」までがひと筆。「生」で墨継ぎ。ここで潤濁を明瞭に打ち出したい。全体潤濁の表出に今一步の感。各自の取り組みに期待。

さ夜ふかく

白ひ湧きたつ

池の魚の

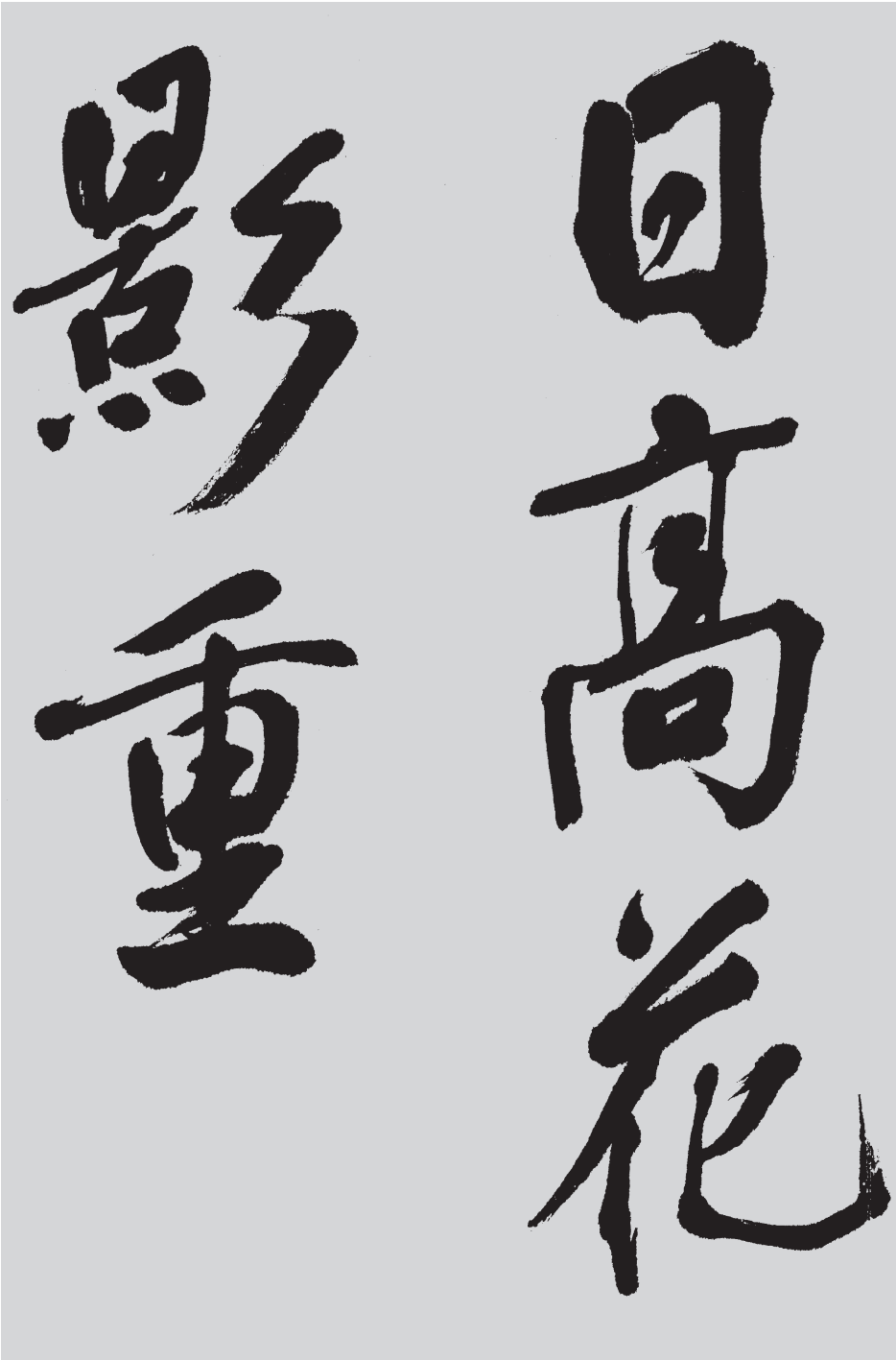
生きのいのちの

かなしかりけり

(小泉千樞)

◆注意…はじめて出品される方は私製の紙(3×4cm位)に次の4項目を記入して作品左下隅に貼って出品して下さい。会員は無料、会員外出品料は400円。

①バーコード券右空欄に漢かと記入 ②支部名または都道府県名 ③氏名または雅号 ④新



平岡華雪先生書

日高くして花影重なる。(杜荀鶴)
訳：日高く花影が濃い。

〈行書で書く〉

今月は行書作品に挑戦となります。一字内の意連はもちろん、二字〜三字、さらには、四字以上と意連させてみてください。

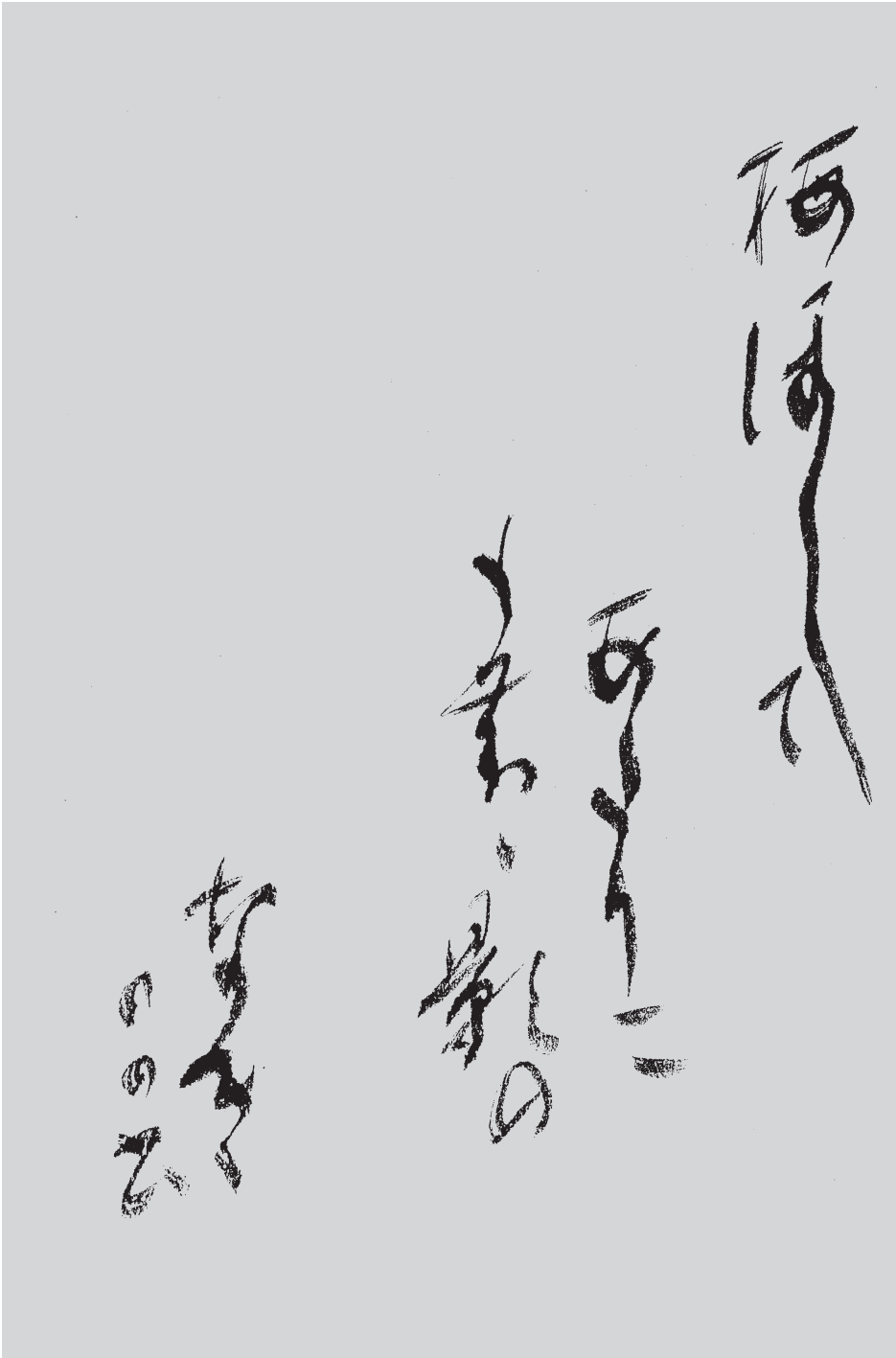
筆のつながりを主調に。「高」三、四画は細く強く。「花」最終画は上へ。「影」の三点はリズム的に。「重」の一画目は逆筆で。

◆注意…はじめて出品される方は私製の紙(3×4 cm位)に次の4項目を記入して作品左下隅に貼って出品して下さい。会員は無料、会員外出品料は400円。

①漢字部 ②支部名または都道府県名 ③氏名または雅号 ④新会員は無料。

平岡華雪先生書

梅干してあたりにももの影のなき(風生)
梅ほしてあたりにも農の影のなき



〈三群構成について〉

漢字二文字、変体がな三文字(多・二・農)これらについては、予め十分に練習を重ね、筆意・字形を習得しておくことです。三群のうち第二群が中心、筆調を高め、墨継ぎも導入。三群は落款をそえて沈着に収めて下さい。落款での気持ち。

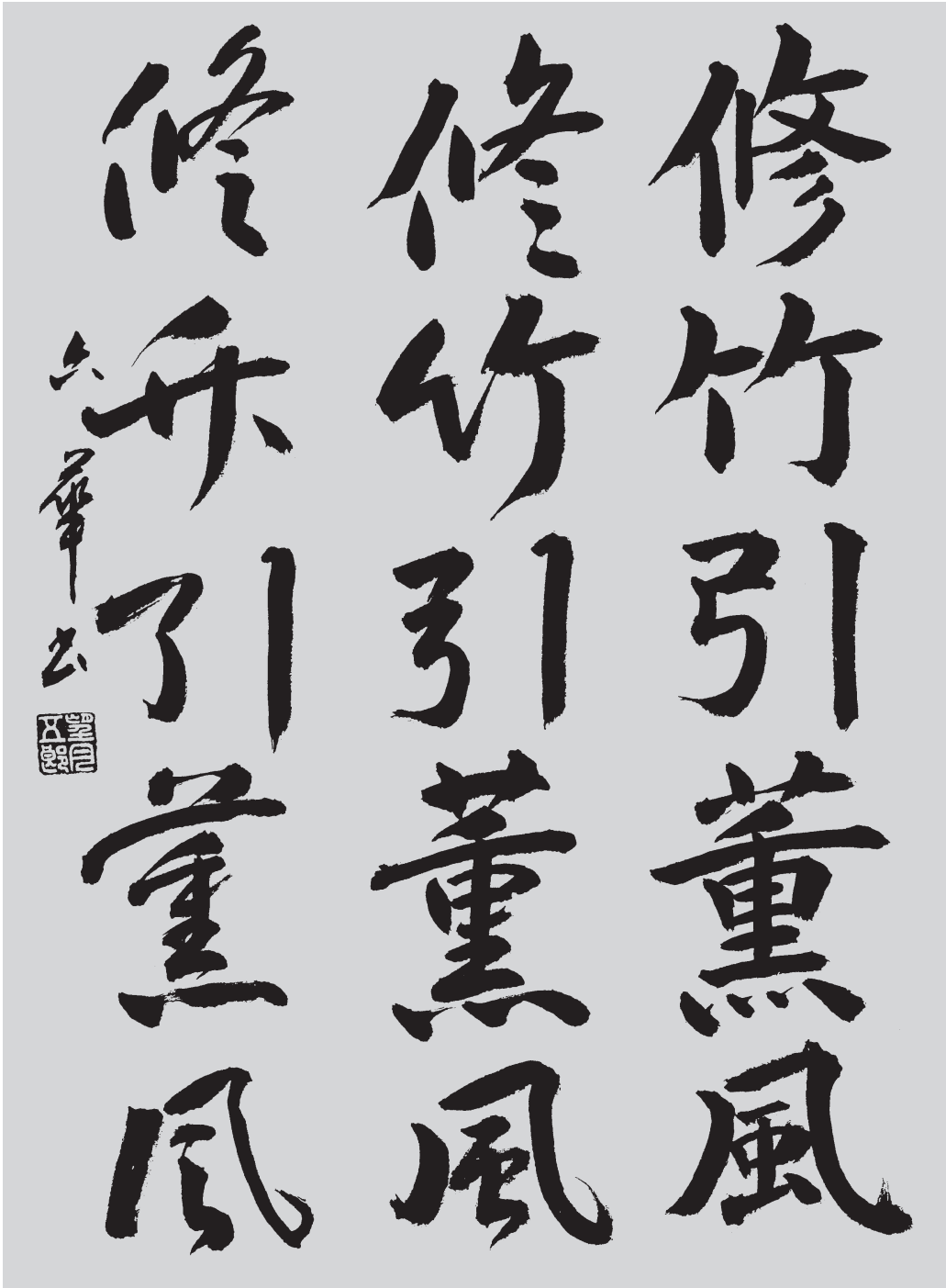
梅 梅 農 芳 芳 芳

◆注意…はじめて出品される方は私製の紙(3×4cm位)に次の4項目を記入して作品左下隅に貼って出品して下さい。会員は無料、会員外出品料は400円。

- ①漢字部
- ②支部名または都道府県名
- ③氏名または雅号
- ④新会員は無料。

望月六華先生書

修竹引薰風（韋安石）
しゅうちくこんふう
修竹薰風を引く。

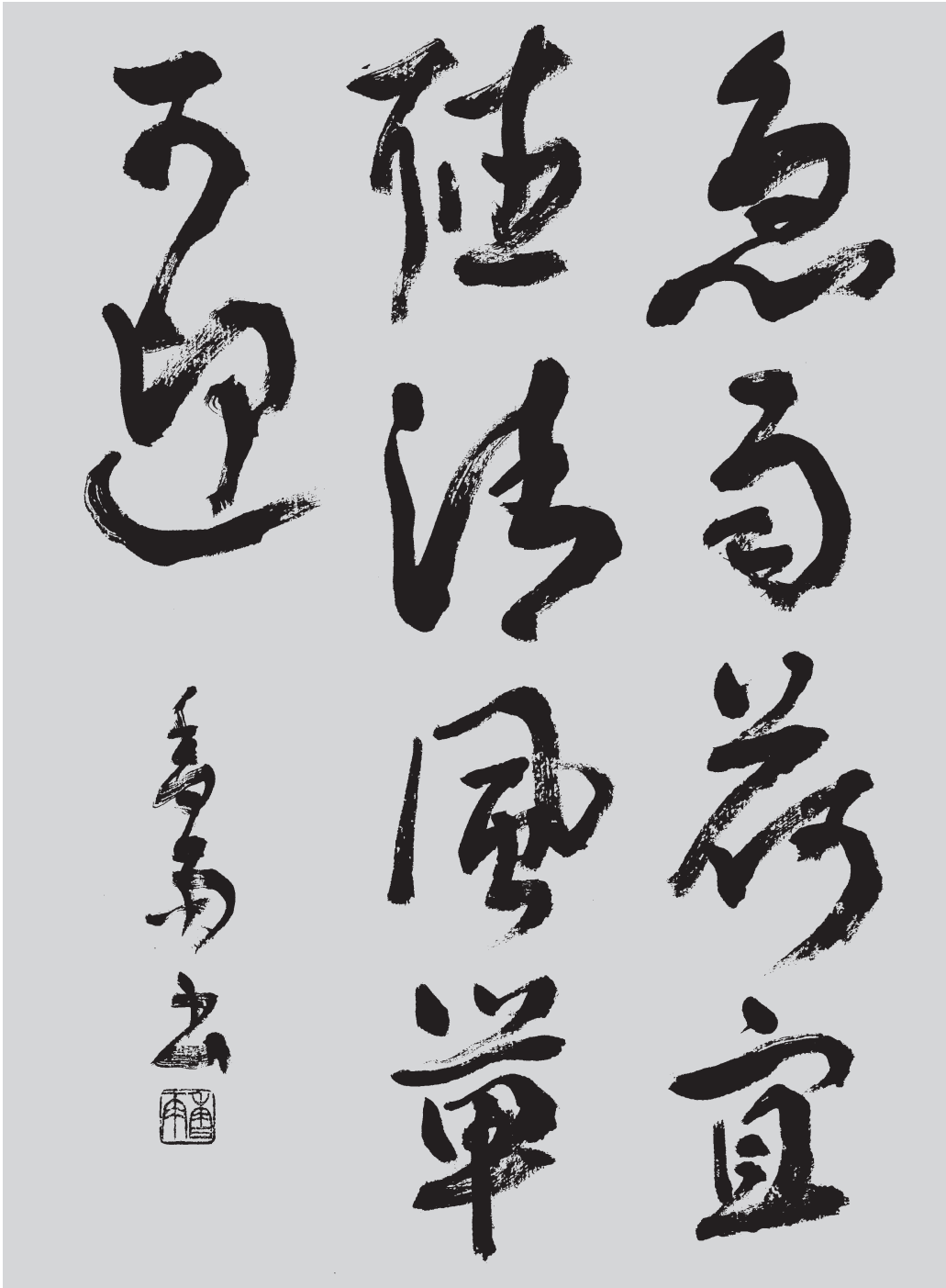


訳：竹の林から夏の涼しい風が吹く。

1. 随意部参考として出品してください。
2. 会員外の出品料は400円。

酒井香雨先生書

急雨荷宜聽 清風簟可迎（黃庶）
急雨荷聽きゅうかうかきに宜よろしく、清風簟迎せいふうてんむかう可べし。

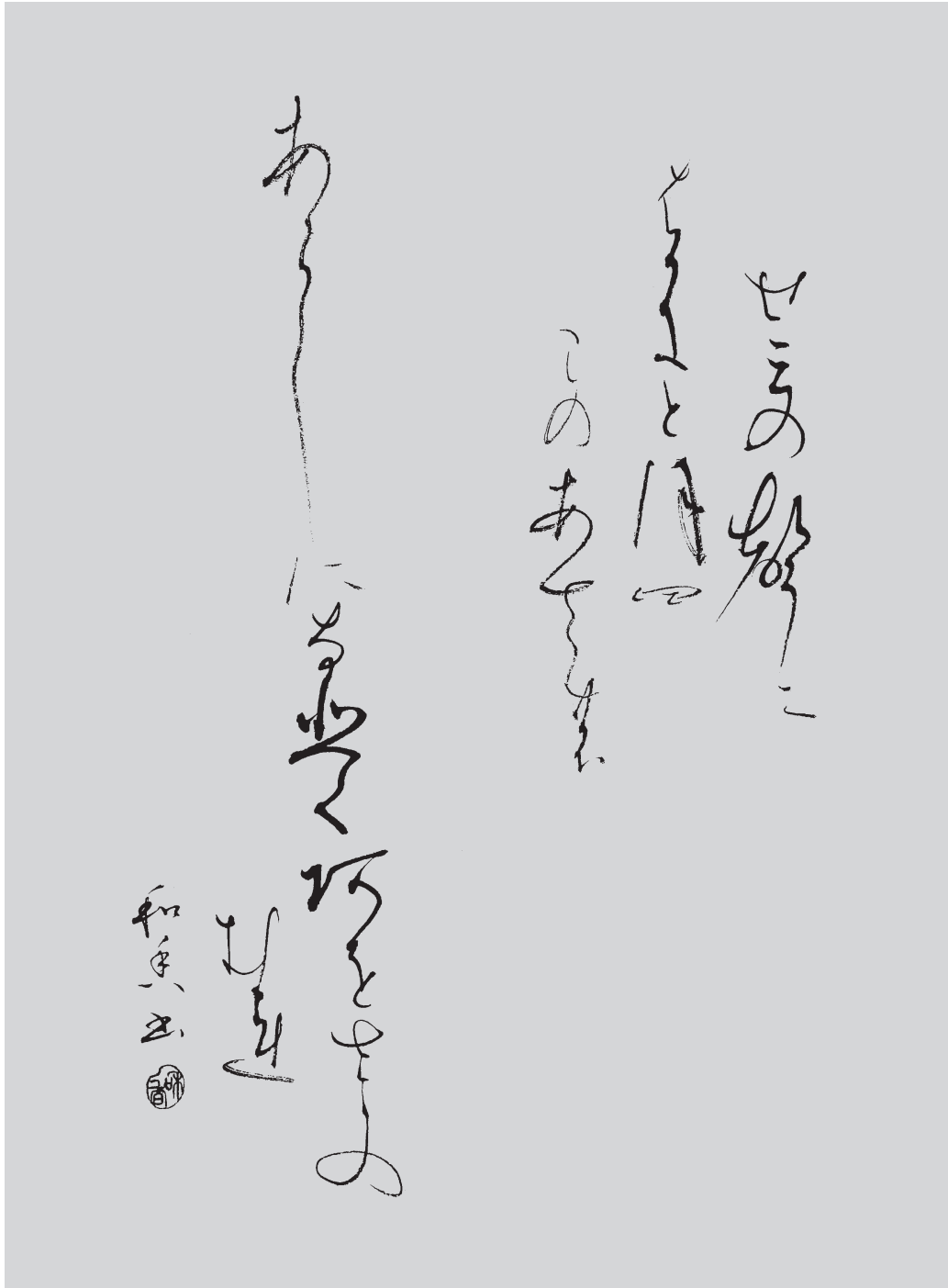


訳：夕立が来て蓮の葉に降る雨の音は聞くによく、すずしき風が竹のむしろに吹くのは迎え受けてこちよい。

添削又は手本希望者は本会規定により、酒井香雨先生（〒144-0043 大田区羽田3-13-10）に直接お申し込みください。

小林和香先生書

蟬の声にはかに乏しこの朝のあらしになびく青笹の群（土田耕平）
せ三の聲二者可尔と保四このあさ農あらしに奈悲く阿をさゝのむ連



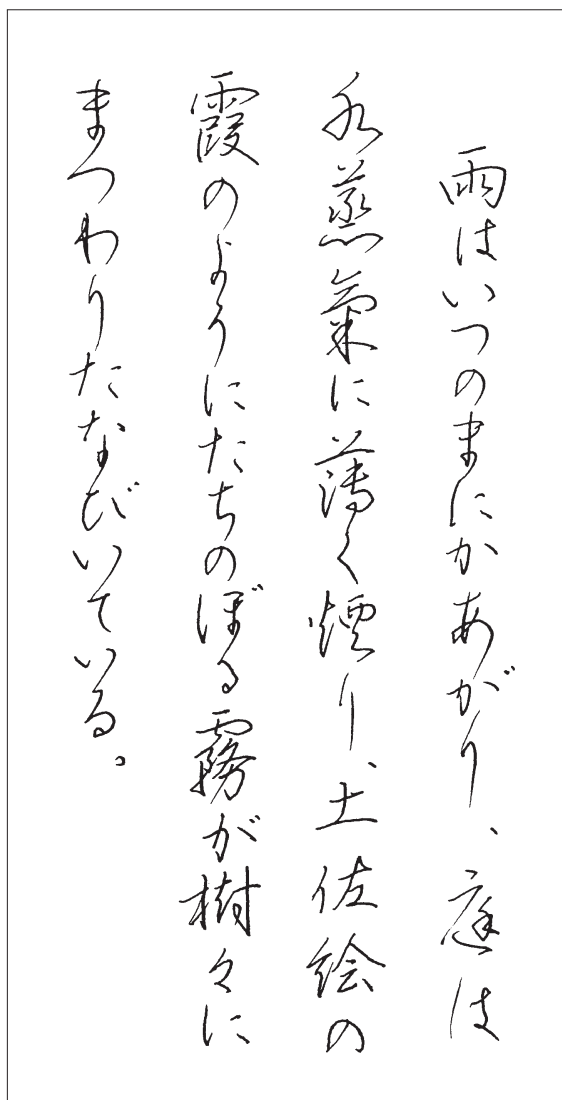
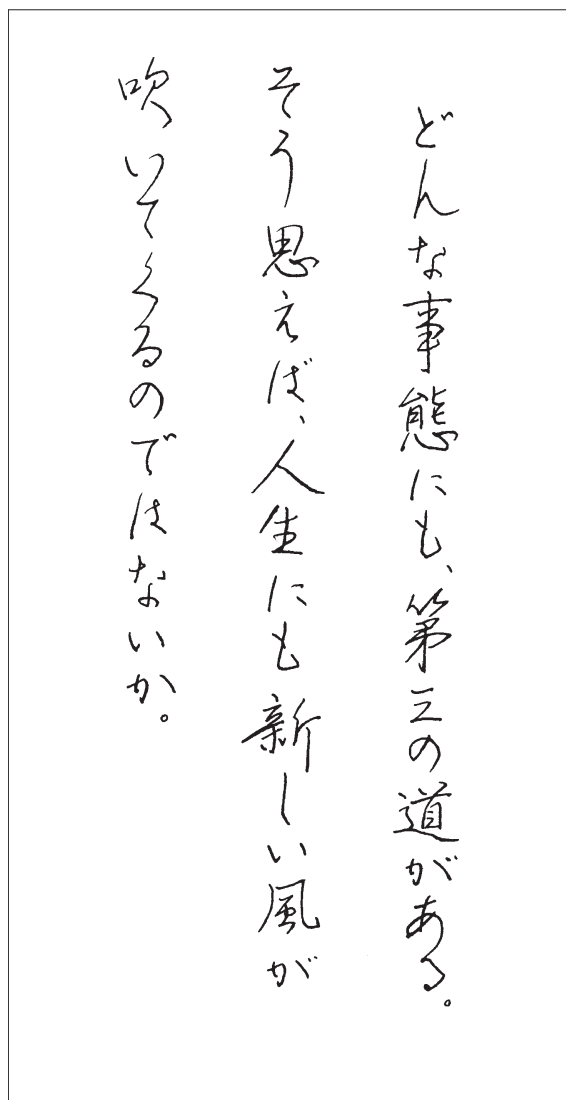
添削又は手本希望者は本会規定により、小林和香先生（〒370-0069 高崎市飯塚町1723-6）に直接お申し込みください。

湯澤春翠先生書

路川千曄先生書

課題 2 (初段階以下)

課題 1 (初段階以上)



課題 1 (初段階以上)

雨はいつのまにかあがり、庭は水蒸気に薄く煙り、土佐絵の霞のようになちのぼる霧が樹々にまつわりたなびいてくる。
 「寂聴と巡る京都」瀬戸内寂聴

◆注意

- (1) 自分の段階に合った課題を選択。
- (2) ペンまたはボールペン(黒色)を使用のこと。青インクは不可。
- (3) 段級欄は本人が記入(色は黒)はじめて出品される方は私製の紙(3×4 cm位に)次の4項目を記入して作品左下隅に貼って出品して下さい。①硬筆部②支部名または都道府県名③氏名または雅号④新
- (4) 会員は無料・会員外は四〇〇円
- (5) 添削希望者は直接担当の先生にお申込下さい。(返信用封筒に自分の住所・氏名を記入し、切手を貼って同封のこと。)

課題 1 六〇〇円
 課題 2 三〇〇円

課題 1 路川千曄先生 〒二〇七〇〇三
 東大和市向原五ノ一〇九一ノ四
 課題 2 湯澤春翠先生 〒三七一〇〇二六
 前橋市城東町一―二九一五

課題 2 (初段階以下)

どんな事態にも、第三の道がある。
 そう思えば、人生にも新しい風が吹いてくるのではないか。

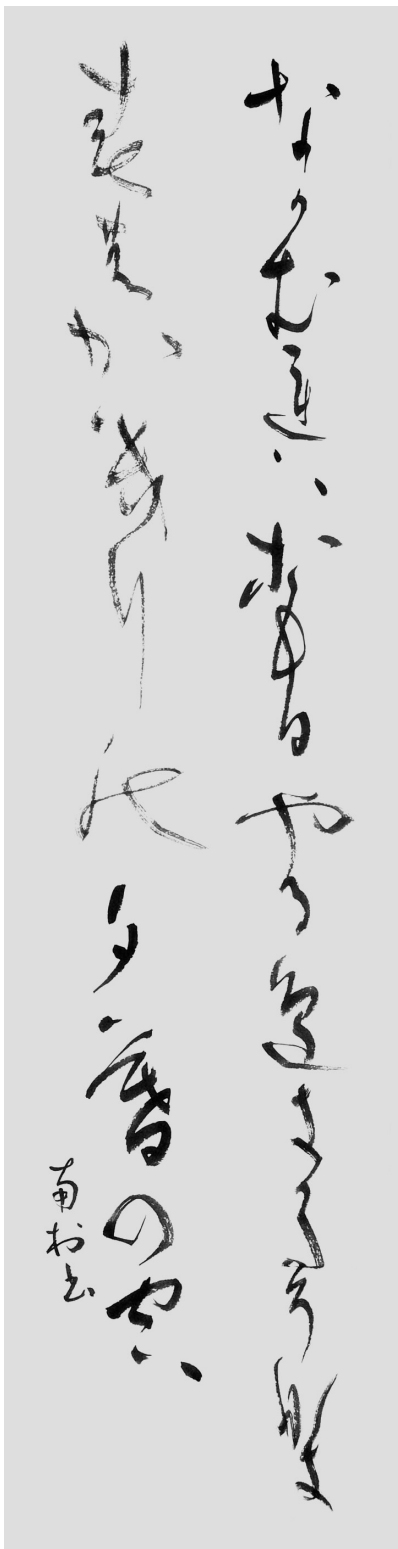
城山三郎のことば

研究部成績発表

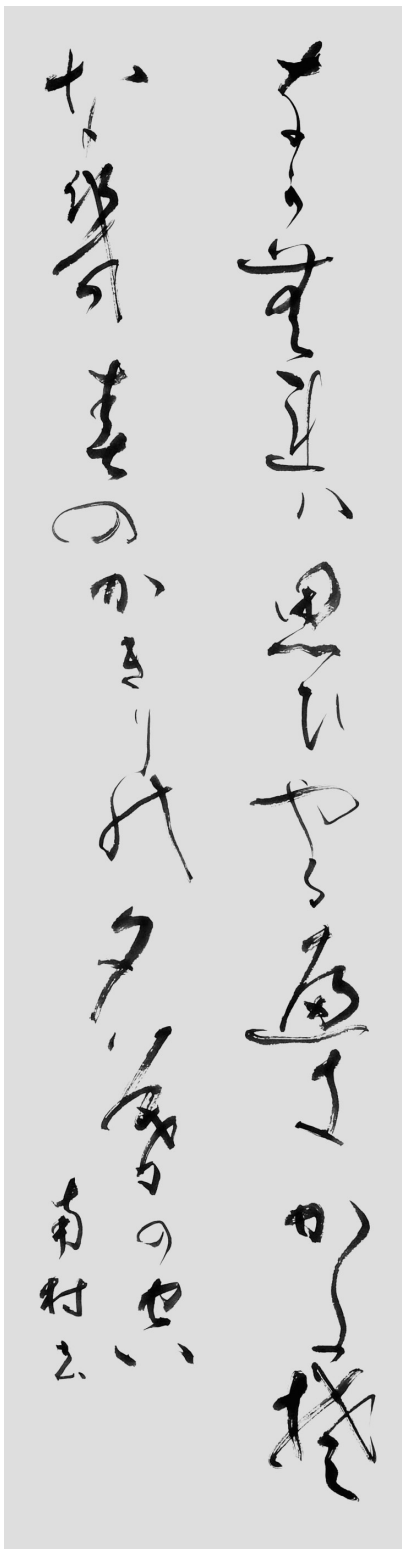
(四月二十二日締切分)

内藤香瑤選
向山朴花選

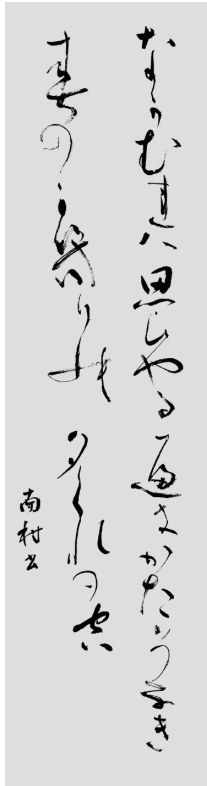
秀逸 埼玉 大和田和子



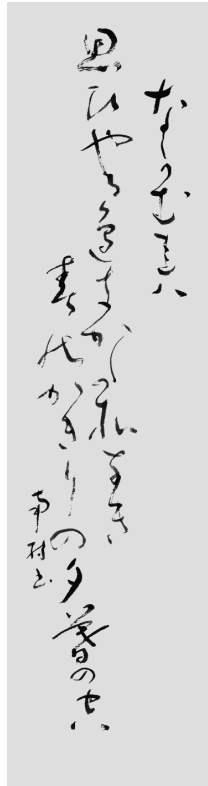
秀逸 嵯華 笹崎久汀



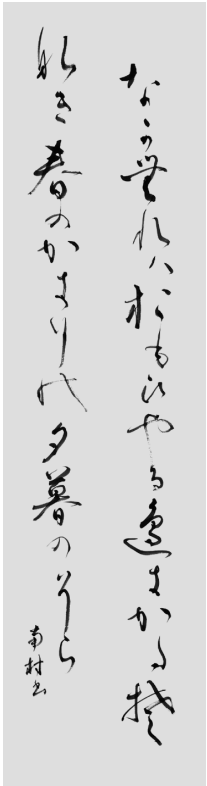
佳作 惠苑 牧村佳苑



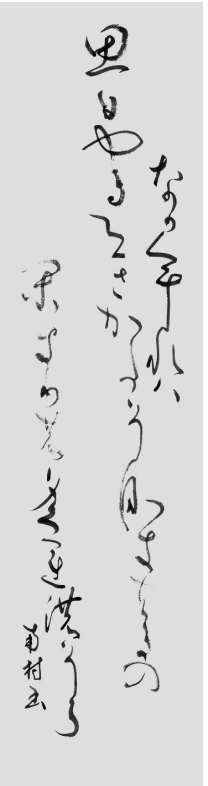
佳作 書徳 長谷川春圭



佳作 東大和 岩本抱水



佳作 蒼穹 金子裕香



内藤香瑤先生評

本会最高位の方々の作品、繰り返し拝見させていただきました。細く
て小さな字で上下、左右に余白が過ぎたもの、反対に紙面いっぱい
に落款まで同じ大きさで、墨黒々と書かれたもの、どちらも古歌の趣意を
わすには不向きでしょう。「春」が、変体仮名の「す」と読めるような、
漢字のくずし方不明瞭な作品も数点、ご自分の雅号、印を押してしま
った作品等、優れた作品であっただけに大変残念に思います。最後にもう
一度、注意事項を見直すことが大切です。

向山朴花先生評

出品作54枚。個々の力作、繰り返し拝見させて頂き、各々の作品から
学び得る事が沢山ありました。仮名作品に欠かせぬ余白のとり方、緻密
さと大らかさの響き合う文字表現の難しさも痛感しました。
紙面に向かう前に、課題の作者・歌意の醸す情趣に心を寄せてみると、
一味深い自己表現が生まれるように感じます。
心惹かれた作品は、創作力があり抑揚の漲る線質で、歌の叙情も伝わ
りました。
中には猛々しい作品、細線に過ぎ、盛り上がり欠ける作品も、見受
けました。
創意工夫の作品を期待しています。

誤字(筆路不明瞭を含む) 思 所 農 春 盤 連 無 者 暮 書
脱字 かたぞなき↓かぞなき 眺むれば↓眺れば
かな遣い ながむれば↓ながらえ
その他の違反 自分の雅号・雅印